

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第59号

平成29年12月12日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

楠正行絵本制作プロジェクト

6分冊1巻本 絵本「楠正行」完成！

制作 大阪電気通信大学 監修 四條畷楠正行の会

製本は四條畷市立図書館に寄贈

四條畷楠正行の会がクライアントとして、大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科の木子香講師に制作を依頼した6分冊1巻本の絵本「楠正行」が完成をしました。

完成した絵本（キット本）は、10月28日（土）に開催した四條畷楠正行の会発足3周年記念事業「武士道の人、楠正行 今、蘇る！」の中で、制作にあたった19名の学生たちによるプレゼンテーションで参加者に発表し、この日、四條畷楠正行の会に贈呈を受けました。

製本された絵本は、改めて寄贈を受け、四條畷市立図書館で子どもたちや市民に手に取って読んでいただくこととなります。

正行の学び まさつらくん

文 芳野仁志

絵 シュウロウ 北村拓人

第1分冊の、正行の学びは、正行が子どもの頃、どのような教育を受けたかがテーマです。

正行は寺に修行に出ます。そこでは、剣術、読み書きを習いますが、武士になるには裁縫もできなければと云われますが、正行は嫌で寺を飛び出してしまいます。

正行が当てもなく森の中を歩いていると、大きなクマに出くわします。



間一髪、お坊さんに助けられた正行は、破れた服を繕ってもらったことから、裁縫も練習し、成長し、父のもとに帰ってきます。

そこで、父の破れた服を直し、父に褒められ、一人前の武士になった、というお話です。

正行の友 まさつらとけんしゅう

文 上埜稜平 北村直輝

絵 川村一輝

第2分冊の、正行の友は、この時代、正行がどのような遊びをして大きくなっていったか、というのがテーマです。

勉強好きで頭のよい正行、そして大きくて力持ちの賢秀が主人公です。当時の遊びと言えば相撲だったのでしよう。しかし、その相

撲では勝ちたい余りに、喧嘩になってしまいます。そこで、駒で決着をとりますが、勝負がつきません。

最後に竹馬遊びのかけっこで勝負することになりますが、賢秀の竹馬が折れてしまいます。正行がその竹馬を直し、二人は手を取り合って仲直りし、その後、協力し合える一番の友達になった、というお話です。



正行の大志 たみもりのぶし正行

文 阪田創志

絵 李朝都

監修 湯汲真衣子

第3分冊の、正行の志は、正行の志したものは何か、というのがテーマです。

難しいテーマ設定でしたが、学生たちのディスカッションによって、民を守る武将としての正行を描くことで、その志を表してくれました。

父のように立派な武士になることを夢見ていた

正行は、民を守ることの大切さを教えられます。そして、盗賊に襲われそうになっている村人の話を聞きつけ、父に伝えようとしたのですが、その途中、現場に出くわします。

正行は、民を傷つけるものは許さんと、一人で立ち向かいますが、多勢に無勢、追い込まれ、あわや万事休すというときに、正成が駆けつけ、助けてくれます。

村人は正行にお礼を言い、実際助けたのは父と正行は戸惑いますが、村人を守ったのはお前だ、誇りに思うと、褒められ、メダタシメダタシというお話です。

正行の恋 正行 恋物語

文 永禮幹康 チョウチョウゼン
絵 櫻井美咲 マンシンウ

第4分冊の、正行の恋は、吉野拾遺に載る正行の恋物語がテーマです。

正行は、吉野に向かう途中、様子のおかしい駕籠に出くわします。ある局が住吉詣でに行くというのだが、駕籠の中から泣き声が聞こえ、これは一大事と正行は警固の一味を捕まえます。

助けられ、吉野に戻った弁の内侍は、初めて会った強くて優しい正行への思いが募り、一方、正行も気になっていました。二人は恋に陥っていたのです。

天皇が二人の結婚を勧めますが、正行は、武士の身、やがてくる戦いのことを考え断るのです。そして、四條畷の戦いで亡くなった正行を、弁の内侍は尼になって死ぬまで弔って暮らした、というお話です。

正行の情け 渡辺橋の美談

文 高木慶大
絵 利上悠斗 劉 可人

第5分冊の、正行の情けは、平和主義者、和睦論者の



正行を描くことがテーマです。

1347年、次々と敵を倒した正行は、住吉・天王寺の戦いで大軍と戦います。町に火を放ち、敵を混乱させ、多くの敵兵は京の都に向かって逃げ出し、唯一の橋、渡辺橋に殺到しました。

川に落ちた敵兵は溺れ、凍え死にそうになりますが、その時正行は、「戦いを止め！溺れる敵兵を救え！」と、兵に命じ助け出し、暖を取らせ、衣服を与えて都に帰りました。

そして迎えた四條畷の戦い。渡辺橋で助けられた兵たちは、正行の味方としてはせ参じ、共に戦ったというお話です。天満橋にそのことを伝える碑が建つと紹介し、絵本は終わります。

正行の最期 正行最期の戦い

作 中山正規 廣田裕也 山本愛海
絵 山本愛海

第6分冊の、正行の最期は、四條畷の戦いがテーマです。

これが最期の戦いと決意した正行は、弟の正時らを連れて吉野、如意輪寺に向かい、その決意を、「かえらじとかねて思えば梓弓なき数にいる名をぞとどむる」という辞世の歌に託し、門扉に彫り込みます。

吉野から四條畷に向かった正行は、一歩も退くことなく、敵、師直の大軍を突破していきます。途中、兵糧食を摂る余裕も見せ、敵の大將、師直と思しき首を挙げますが、それは偽首でした。

体勢を立て直そうとしますが、敵に囲まれ、身体に矢を受け、「もはや、これまで」と兄弟刺し違えてなくなりました。

小楠公墓所には、「贈従三位楠正行朝臣之墓」と記された碑とともにクスノキの巨木が建っていると伝え、絵本は終わります。

大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科、木子香講師と19人の学生の皆様、楠正行絵本の制作お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)

